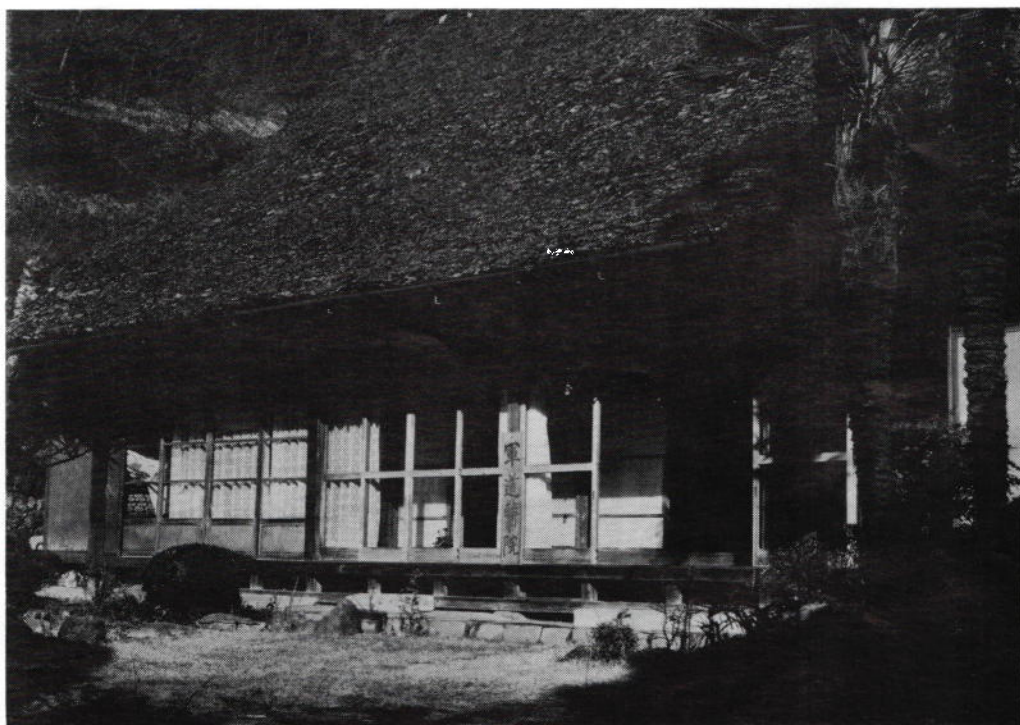


# 西多摩医師会報

第31号 昭和50年4月



軍道医院 五日市町（栗原正吾先生実家一元祿期建築）

## 目

## 次

医師会消息	2
時報・時論	3
生命への畏敬と医政	
三混強制接種再開か	
理事会	4
報告	
特集	5
各部事業の回顧と展望	

多摩の山脈	11
わたしの病気	東吉男
同好会だより	12
新入会員紹介	13

医師会消息

会員数 205名 A会員 118名 B会員 85名 新入会員 B3名 (3・1~3・31)

会 議

3月7日 整備会 " 総務・経理部会 14日 臨時理事会 15~16日 管外役委員会 17日 運転者講習会 18日 会報編集委員会 " 奇術部会 20日 保健所連絡会 25日 理事会 27日 定時総会

会 員 通 知

- ① 都立駒込病院について ② 診療報酬請求書の提出について ③ 処方箋に関する取扱い等について ④ 百日咳、ジフテリア、破傷風(三種混合)の予防接種について ⑤ 社保被保険者証の保険者名コード化の実施延期について ⑥ 会報30号 ⑦ 東京都の国保組合全組合と三鷹市の被保険者証の更新について ⑧ 東京都の国保組合の更新について ⑨ 交通安全運転者講習会開催について ⑩ 都医会が行う産業医名簿作成のためのアンケートについて ⑪ 49年度定時総会開催について ⑫ 49年度定時総会次第 ⑬ 都医代議員及び予備代議員立候補者名簿 ⑭ 50年度歳入歳出予算(案) ⑮ 49年度歳入歳出追加補正予算書(案) ⑯ 50年度各部事業計画 ⑰ 49年度各部事業報告 ⑱ 委任状 ⑲ 日の出町国保の被保険者証記号の増加について

役員出張

3月3日 五日市保健所定例事務連絡会 12日 北多摩准看卒業式 " 公衆衛生担当理事連絡会 13日 49年度公衆衛生協力費交付説明会 14日 三多摩庶務理事連絡会 " 福生准看卒業式 19日 都医代議員会 28日 産業医講習会 " 都医共済会理事会

お知らせ

第3水曜日 理事会 7日 整備会 未定 保健所連絡会 ポーリング大会 予定4月下旬 多摩ポーリング センター ゴルフ 予定4月29日 高麗川 カントリークラブ 奇術部 予定4月17日 医師会館



表紙写真の五日市町乙津にある軍道医院前にある建物ですが、昔病室として使われたとのこと。



## 生命への畏敬と医政

「生命への畏敬と医学の探究」

この言葉は本月京都で行はれ

る、第19回日本医学会総会の標語として平沢会頭がお選びになったという。

未開地の人々に困憐を通して生きる力を与えられた医師であり哲学者であるアルベルト・シュワイツァー博士の「生命への畏敬」という言葉は生命への畏れと敬い、更には生命への奉仕という意味に於て医師を志すものは絶えず持ちつづけている。

特に日本の臨床医は何代となくこの精神による社会奉仕を続け、現在も変ることなく続けている。

然し、近年社会生活の水準の向上とともに一般の人々は勿論政府迄もマスコミの造り出すエゴイズムに根ざした主張は医師の奉仕は全て金銭に変えられると考える風潮をもたらし、医療の根底を破壊しようとしている。

思いつきや、歯止めのない福祉、医療不在の公害対策は医療を増々混乱させている。

近頃不況・節約のせいか、端切れを組合わせて女性の流行服だという。真に結構である。これが政治の上ではこまることになる。ここ十数年の間、医療関係の法律は朝令暮改そのものである。しかも尙一方では明治の法律がそのまま残っている。あばら屋のつくろいをいくらやってもやがて倒壊はまぬがれまい、生命への畏敬を失った日本の医療政策の崩壊は近いのではないか。

正しい医政は人気取りや、思いつきや、歯止めなき集団の要求や、マスコミのでっち上げや、企業及労働組合のエゴイズムや、イデオロギー等からは生れてこない。医療は政治の道具ではない。

もつれにもつれた糸くずの端を夫々勝手に引き会っていたのでは解決しない。医師の持つ「生命への畏敬」の心を尊重し、国民各自も「生命への畏敬」を自分から認識した上で、一度全員糸くずの端を手からはなして、探究された医学と研究された社会的要求のまきあいによる全く新しい糸まりを造らぬ限り本当の医療制度の抜本改正はない。

## 三種混合ワクチン 強制接種を再開

(厚生省方針)

伝染病予防調査会(厚相諮問機関)の予防接種部会(柴谷四郎国立公衆衛生院長一部会長)は3月19日今後の接種について意見を厚生省に提出した。

これによると強制接種は継続する。従来の全国画一的な接種を地域の実情に応じて、個別接種に重点を置き、集団接種も行うという。

厚生省はこの新方式によって三混ワクチン接種を4月から再開すると決めた。

同部会は百日ぜきの発生状況及治療面から百日ぜきワクチン接種をやめることはできぬとし、ジフテリアと破傷風のワクチンは副作用が極めて少ないとされ、かつ百日ぜきワクチンと混ぜて接種すると免疫力が高まることから、三種混合ワクチン接種が好ましいという。

ただ接種時期は、第一期 生後3ヶ月～6ヶ月、第二期 生後1年～1年半であったが、今後は生後3ヶ月～満4才とした。

そしてかかりつけの医師による個別接種に重点を置き、健康状態を良く確かめながら低年齢期に接種を受けるようにする。

個別接種を受けられない場合は集団接種とし、満2才以降4才までに接種する。尙流行のおそれが強い時には集団接種でも低年齢期に接種するという。

以上の実施の為、都道府県に発生状況の調査体制及地域の実情に応じた接種体制をつくる方針だという。(朝日新聞より)

## 医師税制の改正案について

三木首相答弁(3月衆院第一委員会)

「早急に適正な診療報酬を見直し、これに合わせて医師税制の答申を実行しなければならない。次の予算編成に間に合わせる。税制調査会の答申は尊重するが実施が時期的にずれることはお許しをいただきたい。この問題が不公正だというのが世論であり、これに答えなくてはならない」と。

(朝日新聞より)

## 理事会報告

### 理事会議題 (50. 2. 26)

- (1) 6・9ヶ月児検診の問題について  
2月17日保健所、自治体、医師会との会同時異議が出たことですが、最近都より各自治体に協力依頼の文書が来た由、今後本会からも自治体に協力依頼状を発送する予定。
- (2) 公害患者認定医の更新について  
阿伎留病院中村先生開業に付き、松原先生に変更
- (3) 50年度歳入歳出予算案について  
江本担当理事より説明あり。菱山先生より役員手当増額の強硬意見の発言があった。前回総会時にも増額の意見も出た事でもあり、現行金額では余りに非今日的であるとの主旨であった。これに対し担当理事より、本案決定の段階におけるいろいろのいきさつと、整備委員の方もご苦労多い事で此の方こそ増額すべしとの意見もあった旨の説明あり。種々議論の後、決をとり16名中15名の賛成で原案通りに決定した。従って本予算案は理事会で承認されました。
- (4) 新人会員承認  
阿伎留病院外科 本庄 宏先生
- (5) 本会就業規則について  
監督官庁に審査してもらい第29条、災害補償の種類、第30条、災害補償の限度の二項を追加し、理事会はこれを承認しました。

### 地区医師会長協議会報告(2・21)

#### 瀬戸岡副会長

- (1) 保健所の事務移管問題について
- (2) 公害健康被害補償法について  
本会理事会は辞退に決定。
- (3) 駒込病院の性格変更について
- (4) 被用者保険と公費医療諸法との診療報酬明細書一本化実施時期の延期について
- (5) 社会保険関係の被保険者証の保険者名のコード化について(一時延期)
- (6) 処方せんに関する取扱いについて  
(入院患者に付てはとれない)

### 理事会 (50・3・14)

- (1) 49年会計年度歳入歳出予算(案)追加補正分異議なく理事会承認。
- (2) 50年度各部事業計画  
各部より計画が提出された。
- (3) 会員名簿について  
目下新名簿を作製中である。  
定款の改正を必要とせず、12月末日をもって異動分のみを会員に通知することに決定した。

### 理事会報告(3・25)

- (1) 瀬戸岡理事より都代議員会の報告あり
- (2) 入会 星野潤先生 内科 博仁会診療所  
佐藤省吾先生 内科 日本セメント診療所
- (3) 都医代議員候補者について  
現在通り(高水・瀬戸岡先生)  
予備代議員候補者 大河原・菱山先生  
以上の届出があった。

### 地区医師会長協議会報告(3・20)

- (1) 第140回(定時)代議員会議決事項報告について  
3月19日開催の代議員会に於て昭和50年度予算が可決さる。都医師会費が値上げされた。都医師会役員の退職慰労金支給の件も可決。
- (2) 特別区への事務事業移管問題について  
3月10日三者協議会(都庁、区長会、医師会各8名)が開催された。
- (3) 公害健康被害補償法について  
(新たな進展はない)
- (4) 産業医研修会の実施について  
3月28日午後1時30分 日仏会館
- (5) 血液代金自己負担金給付制度推進について



特 集

## 特集に当って

昭和49年の年度末に当り、西多摩医師会は例年の通り定時総会が行われ、49年度の各部の業務報告、50年度の事業計画の報告、50年度の予算案等の審議が行われます。

会報では此を取り上げて総会の報告より、多少くだけた調子で各部の部長さん、各同好会の会長さん方に49年度の回顧と50年度の計画について書いて頂きました。

総まとめとして高水会長にも回顧と展望を書いて頂きました。

御手数を煩わした会長以下の諸先生方に感謝致します。此の企画が会員の諸先生方に多少なりとも御役に立てばと思います。

## 新年度計画について

会長 高水 武夫

すでに総会に於て、御報告申し上げました様に昭和49年度事業計画が、会員の皆様の御協力によって無事執行されました事を重ねて感謝いたします。

昭和50年度についても、各部から夫々の事業計画が発表され、本誌上にも報告される筈であります。具体的な医師会活動の根底には、常に会員相互の理解と団結によって為される地域医療に対する「指導的参加」に結びつかなければならない精神が必要であると考えております。

従って、各部計画についても、内部的には、会員に対する研修、相互連絡、家族ぐるみの福祉対策等に重点をおき、これに関連して、医師会館の充実に関する問題、将来の対税問題についての研究、或いは、公立三病院を軸とする医師会検査センター設立に関する問題等々について、本年度は具体的な着想を得る年ではないかと考え、諸先生方の良きお知恵を拝借したいと思っております。

又一方、外部的には、地方自治体、保健所、学校等との密接な連携を強化し、地域医療に積極的な、しかも主体性をもった参加を押しすすめてゆくつもりであります。本年は、先づ、6ヶ月、9

(5)

ヶ月乳児検診について、すでに御承知の如き西多摩方式の実現に努力をしまっている考えでありますので、諸会員の尙一層の御協力をお願いする次第であります。

## 昭和49年度を回顧して

総務部

高水会長統轄による3年目の医師会活動として新役員の職務分掌、各委員会の委員選出後臨時総会を開催し昭和48年会計年度の決算承認を受け、医師会各部と密接なる関係を保ちつつ医師会活動に支障のなきように心掛け、毎月の理事会に於ては都医師会よりの通達事項及び地域医療に関する諸問題に関して協議し夫々の案件に就て速かに会員各位に周知徹底に遺憾なきように努めた。

三多摩医師会懇親会を当番医師会として9月に開催し又各関係官庁及び諸団体と折衝し学校々医執務手当、予防接種手当の増額に努力し。将亦三多摩地区各医師会と連絡を保ちつつ情報交換、同一問題に関する意見交換を実施して三多摩地区医師会は同一歩調で活動するように努めている。

昭和49年度中で大きな問題点は7月の参院選の反省及び昭和50年度の統一地方選挙に対処して昭和49年10月より都医政連の規約が改正され、地区医政連を都医政連の支部組織として、都医師会のA会員全員を会員とする様に改正した点には本医師会としては理解に苦しんでいる。唯単に自民党一辺倒とする都医政連の考えには何か割り切れぬものがあり且つ一方的に押付けてくる都医師会の考え方に理解に承服出来ぬ点がある。

10月からは東京都が乳幼児医療無料化を医師会の反対で断念した替りか6ヶ月及び9ヶ月の乳児検診を実施した。本件に関しては公衆衛生部と密接なる関係を保ちつつ本医師会管内に於ては従来各市町村が実施している3ヶ月児及び3才児の検診法を踏襲せしむべく関係機関と目下交渉中である。又公害健康被害補償法の施行に伴い保険医療機関は辞退の申出のない限り自動的に指定医療機関になることとなり9月より実施されている。公害健康被害補償法に関しては理事会で詳細に検討した結果辞退することが適当であると決定している。

東京都医師会が外廓団体の学校医会を発足させて各地区医師会の従来の学校医会を解散させ統合

(6)

して支部組織化せんとしているが本医師会は既に学校医部が設立されて活動しているため理事会に於ては加入は当分静観することに決定した。

以上主なる問題について回顧したが未解決のまま次年度に持越されるものもあるが、4月以降は又各部理事及び全会員の協力によって山積するであろう諸問題に対して高い理念と新しい構想をもって本会発展のために尽力する心積りである。

(山田)

### 広報部

昨年3月末、理事が改選となり、広報部担当が変更となったため、会報発行の準備がおくれ、発行は7月からとなりました。

会報発行に当り、先づ医師会活動の全般を会員に知らせると共に、医師会の直面している広い範囲の問題を取り上げ、会員の声を反響させながら、医師会の表看板でもあるので、それにふさわしい内容を持ったものにしたいと考えました。

その後編集部員の協力によって、まがりなりにも毎月の発行を続けてきましたが、その目的は充分に達成されたとは思われません。

その後1月発行分から印刷所を変更し、今迄写植による印刷であったものを、タイプ印刷に変更し、そのため経費が半分位にへりましたので、その分ページ数を増して行きたいと思えます。

尚発行当初から毎月7日の保険提出日に会員にお渡しできる様に努力しましたが、私達の編集のふなれのためと、印刷所の能力等のために、定期的に発行することができませんでした。今後は毎月25日〆切で5日発行を続けて行きたいと思えます。

又最近発行をいそぐ結果として、原稿の一部分がぬけたり、誤りが訂正してなかったりの印刷のミスが多い様ですので、その点についても注意します。

最近では会報の編集を三つのグループで分担して交代で編集していますので、内容についても多少とも変化がでてきた様に思えます。

会報発行についての会員の反響はできるだけ注意していますが、大部分の会員は大たい読んで頂いている様ですが、尚殆んど関心もなく眼を通してない人もある様です。

会員の間の評判も色々で、大体今のまゝの形で

続けていけばよいとの意見や、内容が固すぎて面白くない等色々ですが、それには会員の要求の程度も色々で、好みも雑多であるので止むを得ないと思えます。今の処現在迄の方針で、できるだけ内容の充実したものをつくって行きたいと思えます。  
(大河原 周)

### 福祉部

各部の年間報告について会報より記事依頼があったので概要をお知らせ致します。

従業員旅行は昨年11月16～17日と伊東温泉に参加者35名をもって出発、一泊旅行は二度目の計画であったが好評裏に無事帰着ボンクラブで休憩後散会しました。月例ボーリング会は内山理事、木野村先生の努力で開催されているが御承知の通りの下火状態で15名前後にて磐を守っていると云う所で、これにひきかえてゴルフの方は益々盛んで参加者20～30名例会幹事は予約を取るのに一苦労している状況です。旅行部はホンコン・マニラ・九州一周と計画を実行それぞれ会員親睦に役立っており清遊して来たそうです。碁、麻雀部については年二回の大会を開いているが、麻雀部については参加者が固定しているので新参加者を希っています。奇術部は毎月医師会館で熱心に練習を行っており皆様のお目を楽しませてくれた事は実証ずみの所です。ドライブ会は残念ながら本年はオイルショック等の関係で実施できませんでしたがプランは行程ありますので次年度は多数の参加を今からお願い致します。本年の新年会は1月11日ボンクラブで行ないましたが参加者は80名盛況裏に終りましたが会員婦人方の少なかつたことが淋しい限りで今後より多くの参加を御願する所です。運転者講習会、税務講習会等も開催しておりますがこれまた出席率が芳しくないので重ねてお願い申し上げます。週休2日制と休日番制については48年度に引きついで研究する筈でしたが、一般概論に終り皆様に新しい報告はありませんので悪しからず、青梅地区大門診療所については皆様も御承知の通りですので省略させて載せますが、青梅総合病院の増改築と並んで救急医療と休日問題並びに従業員給与、福祉問題が再燃するものと思われまふ。

(矢ヶ崎記)

## 保険部

## 産業医部

企業公害がとやかく叫ばれる現在でも、産業医に対する一般開業医の関心は、殆んど0に等しいと思われまふ。かといって産業医部の存在価値が零という訳ではないし、否むしろ今後段々重要性が増大してくる社会的状況と思われまふので、会員各位にも(特に現在非産業医の先生方にも)、将来産業医になる可能性が充分ありますので、この方面に対しての関心を持っていただくために今年も昨年同様、出来れば講習会を開きたいと考えております。

尚、都医でも企画しておりますが、産業医の実態調査も過年度に引き続き、纏めたいと思っておりますので、会員各位のご協力を切にお願い申し上げます。(内山)

## 経理部

(昭和49年度のあゆみ)

オイルショック以来の物価高で、予算が足りなくなるのではないかと心配しておりましたが、昭和48年度の決算は、役員諸先生及び事務職員の協力で、赤字を出すことなく無事終らせて頂きました。昭和49年度予算執行にあたっては、出来るだけ節約をお願いして、何とか予算内でやりくりがやれそうでしたが、会館の雨もりのため、屋根の修理と玄関の修理が必要となり、印刷機の購入のためもありまして、補正予算を組まして頂きました。

昭和50年度予算編成にあたりまして、会費の値上げを極力抑えようと努力しましたが、会員の皆さんに約20%から25%程度の上昇をお願いせざるを得なくなりました。事務職員の給与を公務員に準ずる程度に上げさせて頂きました。今後の物価上昇、公共料金の値上げを見込まざるを得ないため、節約出来るものは切りつめて、予算を編成させて頂きました。

会員諸先生の御理解と御協力をお願い致します。

(江本)

## 昨年度保険部実施事業

減点検討会	7月11日
保険事務講習会(於小金井公会堂)	7月18・19日
保険講習会(於小金井公会堂)	9月26日
点数改生保険講習会(於立川市民会館他)	10月1・19日
生保指導立合	9月19日
	10月23日
	11月21・26日
国民健康保険講習会	11月13日
管内市町村国保担当者懇談会	11月14日
保険指導	2月17日
国保社保点検整備会	毎月 7日
	但し 12月 6日
	1月 8日

## 本年度保険部事業計画

社会保険講習会	6月・10月
国民保険講習会	9月
減点検討会 必要に応じ	年四回位
市町村国保主務者との懇談会	11月
社保国保点検整備会	毎月

## 学術部の現況について

昨49年度は、5月15日理事会で事業費の承認を得て、早速その具体策を練る事とし、新しい試みとして、なるべく多くの先生方に直接参加していただきたらとの学術部理事等の考えで各ブロックから5名づつ次の諸先生方に学術部員として活動をしていただく事になりました。

東部： 松田・堤・東・小林・木野村  
西部： 小沢・平岡・野村(有)・速水・田島  
南部： 米山・大塚・桂木・橋本・葉山

6月11日、会長、副会長、学術部員全員出席のもとに、学術部活動の具体案を討議し、学術講演会を4回、研究会等を病院を中心として4~6回とし、次の様な活動をして参りました。

○6月22日 CPC、Eトリリミーの疑われた奇型児 於青梅総合病院

- 7月16日 学術講演「胃X線の最近の進歩」  
順天大栗原先生 於医師会講堂
- 8月27日 CPC、上下腸間脈、腹腔動脈血  
栓症 於青梅総合病院
- 9月20日 心電図研究会  
滋大 中塚先生 於福生福祉会館
- 9月24日 川崎病について  
日赤 川崎先生 於青梅総合病院
- 11月26日 小児急性熱性皮フ粘膜リンパ節  
症候群  
日赤 川崎先生 於青梅総合病院

上記の如く計画通りにはなかなか実行出来ませんでした。新年度については、なお一層有意義な活動方針を練り、会員の皆様の研修に役立つ様努力する考えであります。誌上をお借りし、先生方に、何か希望が御座居ましたなら、どしどしと最寄りの学術部員にお申し下さる事をお願いいたします。積極的に取りくむ方針であります。

(箱崎)

#### 公衆衛生部49年度行事内容

##### 49・4・26 保健所連絡会

- ① 青梅第2保健所7億円の予算で福生地区内に
- ② 肢体不自由児の通院対策 ③ 重度心身障害者の介護料20000月) ④ ベット猿からの赤痢感染 ⑤ 集団給食の洗剤について行政指導
- ⑥ 日の出町カドミウム汚染は人体被害はなかった。

##### 49・5・22 (同)

- ① Aい抗原保菌者が人口の2%にありB肝炎の流行防止につとめる。

##### 49・6・13 都医師会公衆衛生講習会

- ① 公害の本質と展望 東京都公害局主幹 田尻宗昭
- ② ゴミ公害、日本医大 乗木秀夫

##### 49・6・20 医師会、保健所、3消防署

- ① 原因不明の下痢患者の発生は水が原因と思われる。
- ② a・急救業務の増加  
b・五日市保健所管内の急救患者の80~90%は福生地区内に収容されている。  
c・医師同乗の要請をする事があります
- ③ 大量負傷者の事故発生の場合は先づ消防署に連絡があり保健所は医療防疫の手配を司る中継点。

##### 49・7・18

- ① 6ヶ月9ヶ月児健康診査について医師会の基本態度を決めてくれる様に要請あり。

##### 49・9・19

- ① 大気汚染監視所が都内20ヶ所から28ヶ所に増加 ② 6・9ヶ月児の健康診査の依頼について再び説明があった ③ 食中毒の届出に証拠物件のない場合は状況報告でもよい(調査をする)

##### 49・10・23

- ① 医療放射線監視員を設ける ② 医薬品情報(モニターに依る副作用の結果)を月報で出す
- ③ 6・9ヶ月児健康診査は地方自治体の協力によって集団方式を打ち出す方針とする ④ 小施設の嘱託医の年次身分保障を名目だけのものにしていない施設に対して監督指導をする様に要請した。

##### 49・11・21

- ① 保健所区移管については郡都市共に従来通りとなる ② 集団赤痢欠席者の調査に安易に治療されている傾向にあるので保菌者になる可能性がある。③ 6・9ヶ月児の健康診査は自治体を加えて検討をする必要がある。

##### 49・12・11 医師会、保健所、3消防署

- ① 6・9ヶ月児の健康診査については医師会の態度が決まれば自治体に対しては保健所が接渉する ② 檜原に秋川消防署の出張所を開設急救車が配置されている ③ 大門診療所は一次急救の立場をとっている。④ 集団急救の件について消防署に原案を作製してもらい検討する。

##### 50・1 各ブロック毎に公害健康被害補償法及び6・9ヶ月児健康診査の件について説明会

##### 50・2・3 五日市保健所管内自治体に対して6・9ヶ月児の健康診査の方法を説明

##### 50・2・17 青梅保健所管内自治体に対して同上の説明を行う。

(近藤 友好)

#### 49年度 学校医部事業報告

##### 1 49年4月19日

東京都医師会主催の学校医担当理事ブロック別連絡会(三多摩ブロック)

- (1) 学校保健法施行規則一部改正について。特に腎臓病、心臓病検診について各地区医師会の体制について。



(2)ツ反判定規準の変更について

2 49年5月15日

正副会長、学校医部理事合同会議

(1)学童の腎臓病・心臓病検診は郡内統一方式とする。

(2)心臓病調査票、保健調査票は様式を統一する

3 49年5月25日

順天堂大 村上教授の内諾を得た上で、東京都予防医学協会の山口勝夫、二上継夫両氏をよび心臓病検診について打ち合せを行う。

4 49年6月24日

西多摩医師会管内市町村教育長、教育担当課長との懇談会

(1)学童の心臓病検診について西多摩医師会の方針を説明す。

(2)青梅市を除く各市町村は医師会に一任し調査票についても統一した様式を希望した。

(3)学校医の保障その他について。

5 49年6月30日

各市町村学童の第二次検診該当者決定す。

6 49年12月13日

学校医講演会 学童の心臓病検診について

講師 順天堂大 村上正中教授

講演の内容については会報29号に記載した。

### 50年度 学校医部事業計画

1 5月初旬

西多摩郡内市町村教育長、教育担当課長との連絡会並びに懇談会。

2 10月

研修会

3 心臓病検診結果その他については逐次会報を利用して会員に報告する。

福 島



(秋川市雨間にある平野先生のお庭です)

ボウリング部 (部長 内山 大)

毎月第三土曜日 午後8:30スタート  
多摩ボウリングセンターにて行います。

尚年度末大会は優勝トロフィー勝ち取り戦を行います。49年度大会数10回、去る2月の優勝トロフィー勝ち取り戦では丸茂先生の御息が優勝されました。会員、家族、従業員の皆様奮って御参加下さい。

ゴルフ部の現況

部長 江本 虎雄

昭和40年2月に発足したゴルフ部は、部員40名となり、隔月の例会には20名から24名の参加で、大会毎に盛大になってきました。昨年8月例会後、ゴルフ部規則と内規を決め、役員を選任しました。規則に従ってゴルフ部の運営とゴルフ大会が挙行されております。従って今迄の優勝すると幹事をやらされるという心配がなくなり、力いっぱいプレーできるようになりました。部員の多数の希望で、原則として日曜日に大会を行います。ぐう数月で年6回の予定になっています。4月の大会が第60回になりますので、多数の参加をお願いします。新しくゴルフをはじめられる方速慮されて入っていただけない先生方の参加を歓迎いたします。

現在の役員は次の通りです。(敬称略)

顧問 高水武夫

部長 江本虎雄

幹事 宮地 誠(庶務) 平林信隆(会計)

内田 智

官川栄次

## 囲碁部

毎年厳寒の2月11日と盛夏の8月第4日曜に大会を行う事にしております。

昭和49年度は夏の会を9月15日(世話役の都合で月おくれとなりました)午後1時から、西多摩医師会館で実施、参加者10名、成績は会報25号の通りです。

冬の会は昭和50年2月11日午前10時から青梅福祉会館で、参会者12名、戦績は会報30号にのせました。

昭和50年度の予定は

夏の会 8月24日(日)

冬の会 2月11日(水)

何れも時間と場所は未定です。

囲碁大会は賞品目当に勝敗を争うのではなく、会員、家族、従業員の同好者が集って、ゆっくりと囲碁を楽しむのが目的です。初心の方でも、これから始めたいと思われる方でも結構です。多数のご参加をお待ちしております。

(甲斐)

## 麻雀同好会の50年度計画

例年通り8月と正月の第3土曜日(S50・8・16及びS51・1・17)に夫々納涼及び新春麻雀大会を青梅の河辺駅前の「いろは寿司」で行う予定です。今春の雀会には強豪揃いの福生病院の先生方が都合でお見えにならず誠に残念。当方も今後充分に気をつけて連絡を密にする心算ですが、同好会の諸先生にも予定日に諸計画を合せて下さいますようお願い致します。只今では4卓をスベアなしに囲めればと思っています。次の納涼麻雀は、春の優勝者五日市の今川先生が幹事として前回の富永先生に代りお世話を願うことになっていますので皆さんも宜しくご協力の程お願い致します。最後に今年の念願、それは医師会に雀卓と牌を置くことです。

(杉本)



## 旅行部

(部長 上田 登代一)

昨年度は国内旅行(北九州方面、2泊3日)、海外旅行(マニラ、3泊4日)、を無事実施致しましたが、本年度は、海外旅行(フランス9日間、8月中旬の予定)、及び、国内旅行2回(関西地方、及び、東北地方温泉めぐりの予定)を企画して居りますので、家族ともどもの参加を期待して居ります。尚、今後、海外旅行は、本年度より、十年計画として、東南アジアから、ヨーロッパ及び中南米を含め、毎年、或いは隔年毎に計画の予定です。

## 奇術部

池田 聖

(経過報告)西多摩医師会創立60周年を記念して昨年2月22日奇術部を創設、第1回目の会合には、石森賢一、香西盛長、栗原正吾、川崎健一郎、宮川栄次、鹿野純一、中村倫二郎(阿伎留病院)の各先生方の賛同を得、私とで8名の部員で発足致しました。毎月1回例会を医師会館で開催、材料費として毎回千円程度の例会費を頂戴して、2・3の奇術材料を配布、それをもとに修練しております。今年3月に第14回目の例会を迎えますが、その間、ロープ・ハンカチ・トランプ・シガレット・スポンジボール等の基本技法と、小道具を使う奇術12種類の研究を行い、年末の例会では、その年1年間に習った奇術の総復習を行っております。部員は其後、滝浦復平(福生病院)、速水完一、杉本一、の諸先生を加え、現在11名。その他に会館の藤田さんが準会員として第1回から参加、江一点として貴重な存在となっています。奇術部の新年会は、会場をかえてムサシノボンクラブで、特別講師として多摩奇術愛好会の指導部長、西脇正良氏を招き、活気に溢れた会になりました。また昨年秋には青梅市三師会主催、霞共益会館に於ける市民の集いで、三師会会長の香西先生を中心にして、中村先生、私の3人が出演、ロープ・シルク・3羽の鳩出しと消失等を演じ、プロ顔負けという評価を受けました。恒例の西多摩医師会新年会では、ご承知のように、奇術部員が次々と出演、日頃の腕前をご披露し、本会報2月号にありましたように大好評でした。

(50年度事業計画) 本会より年間1万円もの補助金を頂戴しましたので、これを活用して少くとも3人以上の特別講師を招き、会のマンネリ化から脱却、奇術研究への刺戟、技術の向上に資する計画で、補助金は講師への謝礼に当てる予定です。ゆくゆくは、中村先生と親交のある引田天功師などのプロにも来ていただくつもりです。また来年の西多摩医師会新年会には、少くとも5名位の奇術部員の演技をお目にかけて、皆さん楽しんでいただきたいと、今から日夜一同腕を磨いております。



## 多摩の山脈

### わたしの病氣

東 吉 男

元来病弱で鳥のがらみみたいな体をしている私は健康には十分注意してきたつもりでした。医者になって二十有余年末だ曾て病気で休んだ覚えはなく休んでも精々半日位の休養で診療を丸1日も休んだことはありませんでした。併し此の数年来何となく体力の衰えを感じてはおりました。私の場合特に腸が弱く1日2~3回の下痢はざらで週の中半分位は下痢するという状態がここ数年来続いておりました。特に昨年夏はこの下痢がひどく1日数回に及びその中2~3回は血便という状態が4~5日も続き終りには激しい腹痛と共にテール様の黒便をみる様になりました。もともと下痢便には馴れこの私も些か心配になり病院へでも行って精密検査を受けようかと考える様になりました。併し静養と食事療法を続ける中、次第に便性は快方に向ってきましたので、つい病院へは行きそびれていました。そして其の後間もなく感冒に罹ってしまいました。鼻かぜ、のどかぜの類で大したことはなかったのですが、鼻血が出始め、毎朝洗顔する時は勿論、入浴中でもたらたらと流れ出る仕末で、どうも困ったものだと思っている中、今度夜床に就いてから睡眠中に突然鼻出血に襲われる様になりました。血圧は元来低い方なので脳溢血の心配はしなくてよかったです。夜中何もせず静かに仰臥しているのに鼻血が出るのはどういう訳だろうと、どうにも合点がゆきませんでした。この様な夜中の出血が2晩3晩と続くに及んでたまりかねた私は意を決して専門医を訪れた次第でした。聞けばこの様な夜中の鼻出血は何も珍しいことではなく鼻前庭部のキーゼルパツハとかいう部分の毛細血管が怒張して血腫(米粒大)を形成しているとの話でした。ついてはあなたの鼻は曲っていますよ、との御託宣、それでも僅か2回の通院で鼻出血は完全に止っていい、流石、と感心したり感謝したりでした。

便性もよくなり鼻出血も止ったので一安心した私は又ぞろ暇さえあればゴルフ練習場に通い始めました。其の頃はまだ9月の中旬で毎日流れる様な汗を物ともせず性こりもなく球を打ちまくった

(12)

ものでした。そんな或日の夜、普通に食事して人浴後急に右上腹部より心臓部にかけて鈍痛を覚え嘔気を催してきました。下痢はしても上腹部の痛みは殆んど経験した事のない私は、てっきり食中毒と思いきみ吐けば治るだろうと大して気にも止めなかったのです。ところが痛みは何回嘔吐しても弱まるどころか時間と共に益々強くなりどうにも我慢出来なくなってきましたので終に20年来の誇りを捨て、愚妻に鎮痛剤の注射を頼みました。併し15分以上たっても何の効めもなく痛みは益々激烈さを加え、腹部を圧えて右になったり左になったり四つばいになったり、まさに七転八倒の苦しみとなりました。腸をえぐりとられるような余りの痛みにも声も出なくなった私は、麻薬々々、早く早く、何をぼやぼやしているんだ、と口走ったのを覚えております。たらたら流れ出る汗をふきふき必死にこらえている中、さしもの痛みも次第に軽くなり約15分後には嘔気だけを残して殆んど消えてしまいました。

その翌日より痛みは去ったものの嘔気腹部違和感頻尿等の異常症状が続く為、愈々覚悟をきめて病院の内科医に精密検査を依頼したのでした。痛みの様子から胆結石を予想していたのですが、腎盂尿路X線撮影の結果意外にも腎結石であったことが分かりました。尿の顕微鏡検査で無数の赤血球を認めたのは勿論ですが、右尿管末端の膀胱開口部に明らかな尿結石を認めたのでした。それより約1月近く排尿痛、頻尿に悩まされましたが、或日突然下腹部痛(肛門寄り)と排尿痛を最後に排尿障害は完全に消失してしまいました。

腸出血、鼻出血、腎結石と続いたこの一連の病気の成因に就いては、やはり7月以来の下痢を物ともせぬ不養生から新陳代謝の異常を来し思わぬ病気を次々に惹起したものと私なりに解釈した次第です。又此の度の病気は私に色々の意味で反省の材料を与えてくれました。

最後に一言、

親愛なる西医の皆さん、体だけは大事にして下さい。

同好会だより

第59回 西多摩医師会ゴルフ大会成績

昭和50年3月23日(日)

青梅ゴルフクラブ 晴後曇

氏名	中	東	GR OS	HD CP	NET	順位	新 ハンデ
丸茂	48	55	103	30	73	準優	27
工藤	45	49	94	18	76	8	
宮川	48	44	92	9	83	15	
丸山	45	45	90	17	73	4	
宮地	44	50	94	11	83	13	
木野村	80	76	156	36	120	20	
内田	43	44	87	12	75	6	
足立	44	52	96	21	75	7	
鈴木	56	57	113	30	83	14	
江本	41	47	88	11	77	9	
松原	53	55	108	24	84	17	
東	49	51	100	27	73	3	26
吉野	46	54	100	17	83	16	
浜田	48	44	92	12	80	11	
大谷	70	58	128	36	92	19	BB
大河原	56	58	114	32	82	12	
高水	52	54	106	28	78	10	
藤田	41	39	80	11	69	優勝	BG 8
鶴田	48	56	104	18	86	18	
堤	53	55	108	33	75	5	

尚 4月は 高麗川CC (4月29日)

6月は 久 邇CC

8月は 霞ヶ関CC の予定です。



くらしの知恵と情報を  
ホームバンクの埼玉銀行



# 埼玉銀行

青梅支店 (TEL.0428-22-1101)    福生支店 (TEL.0425-51-1021)  
 東青梅支店 (TEL.0428-22-2121)    村山支店 (TEL.0425-61-1211)  
 奥多摩支店 (TEL.04288-3-2515)    五日市支店 (TEL.0425-95-1311)

— やまとの保険で  たのしいプラン —

## ドクター・セーフティ・プラン

《最高保障額》

死亡保障	1億500万円
災害による不具(廃疾)保障	1億500万円
休業補償1日につき	1万円
医療費補助	100万円



立川支社 TEL.0425(24)5273  
立川市錦町3の6の1